



### オリンピック選手と幼児教育

平昌オリンピックでの代表選手の活躍が報じられております。冬のオリンピック史上最多となるメダルの数もさることながら、羽生選手のように苦難を乗り越えたストーリーや、小平選手のように国を越えた友情も感動を与えてくれます。夢をつかむ為には、想像を超える過酷なトレーニングは勿論のこと、それを支える強い意志と諦めない心が大切なのでしょう。そんなことを考えていると、どうしても幼児教育との関係に思いが至ってしまいます。

今、世界の先進各国が幼児教育に力を注いでいます。その中でも特に注目しているのが「非認知能力」といわれる力です。人とうまく関わったり、感情をコントロールしたり、目標に向かって頑張る力のことで、一言で表せば「生きる力」と言えるでしょう。これに対し、「認知能力」は、数が分かったり文字を書けたりといったIQで測れる力のことを言います。かつてはどの国も、どちらかという認知能力を重視していました。しかし、幼児期に認知能力を高めることが、その後の人生の成功や安定につながっているのかを調査したところ、あまり関係がないことがわかってきました。一方で、幼少期に非認知能力を身につけておくことが、大人になってからの幸せや経済的な安定につながるということがわかってきました。

今、小学校以上の学習指導要領と同様、幼稚園教育要領も改訂され、そこには非認知能力を大切に教育の方向性が強く打ち出されました。例えば、自分が興味を持った物事や遊びに主体的に関わる中で、「もっと楽しく、もっとうまく、もっとなかよく」するためにどうしたら良いか考えたり、工夫をしたり、表現したりする…たとえ思い通りにいかない時も、話し合ったり、認め合ったり、我慢したり、折り合いをつけたりして自分の感情をコントロールしたりする…諦めずに、粘り強く自分の目標を達成するまで頑張る姿勢を身につけていく…ということです。

非認知能力は、社会に出て、将来どんな仕事についたとしても必要となる力ですが、幼児期に身につける必要があります。世界で活躍するオリンピック選手や、ノーベル賞受賞者なども、その原点は幼児期にあったのかもしれません。

### 生活発表会から見えてくる日常

生活発表会には大勢の方にお越し頂き有り難うございました。子ども達の発表はいかがでしたか? 皆様の温かい眼差しと大きな拍手のお陰により、子ども達も存分に表現できたことと思います。お子様が入園されてからこれまでの歩みを振り返り、大きな成長を感じて頂けましたら幸いです。

生活発表会のねらいは学年によって異なりますが、共通して言えることは、これまで築いてきたお友達や先生との関係を基に、劇遊びや発表に向けた取り組みに主体的に関わり、楽しみ、互いを認め合い、クラスで共に創りあげる喜びを感じ

ることです。先に触れた「非認知能力」に繋がります。

劇遊びの導入は、担任からの「この劇やろう!」で始まるわけではありません。日常接するくさんの絵本や紙芝居などから、子どもが興味を持ち、ごっこ遊びに取り入れられたりする姿を見守りながら、ゆるやかに劇遊びへと発展していくこともあれば、逆にクラスの普段の遊びの特徴から、それに合ったお話が選ばれていくこともあります。ですから、劇ではあるけれども、どこか日常の遊びの様子や生活が垣間見えたり、友達同士の人間関係まで見えたりするのは、それが「生活発表会」と題している所以です。

発表会を迎えるまで、子どもたちは劇遊びや劇作りに、様々な形で主体的に関わっていきます。普段、森で遊んでいる探検ごっこが、そのまま劇の題材になり、劇で歌った歌や踊りを実際に森の中で歌ったり、森での遊びから劇のストーリーが更に膨らんでいったり、、、というクラスもあります。元気に声がだせるように、森に向かって大きな声で台詞を言う練習を試みたり、自分たちで大きな声を意識しながら練習し、本番前日には「明日、僕たちマイクなしでも大丈夫だよ!」と言って、本番では大きな声で台詞を言うことができたクラスもありました。劇の中で使う道具や装飾を作って、普段の遊びで使ったり、仕掛けを楽しむクラスもあります。このように、様々な形で発表までの過程を楽しみ、遊びや生活の中に劇遊びが浸透していきます。皆さまにご覧頂いた発表は、こうしたねらいと過程の上にあります。

保護者の方の立場になると、我が子が「台詞を間違えないで言えていたか」、「踊りを間違えないか」等に意識が向いてしまうかもしれません。しかし、それは幼児期の発達にとって実に小さな事です。むしろ、これまで頑張って取り組んできた姿を認め、讃えて頂けましたら幸いです。



道具や装飾も、みんなで協力しながら作りました。



作った道具は普段の遊びで大人気!

ホールに装飾を運ぶのもお友達と協力して、、、



舞台の袖でも元気に歌います! フリーの先生も一緒に劇を楽しみます!



毎日、沢山のお客様が！ 森に向かって大きな声で台詞の練習！ 我ら、わんぱく団！

### 豆まき会

お部屋で豆を食べた後、今年はホールに集合。節分のお話を聞いて、いよいよ豆まきのスタート！ 年少、中、長、それぞれにいろいろな鬼が現れました。みんなで力を合わせ「鬼は～外！」。段々と弱っていく鬼に、担任が「豆がら」と「柊鰯（ひいらぎいわし）」を見せると、鬼は降参し逃げていきました。すると「福の神」が現れ、みんなに福をもたらしてくれました！これでみんなの心の中の鬼もいなくなり、1年間元気に過ごせます！！



年長さんはクラスで大きな鬼を作りました。

どこにどんな廃材を使用するか、設計図も書きました！  
いくつもの鬼がやってきて大変！みんな一生懸命に豆をまいて鬼を追い払いました！

### 八王子市市制100周年記念植樹…100本植樹！

八王子市の市制100周年事業を記念して行ってきた植樹がようやく2月上旬に完了しました。昨年11月の鉄腕クラブでの植樹から始まり、保育中に園児との植樹したり、そして土日祝日や冬休みに植樹したりと、継続して行ってきました。そして、大小合わせ、延べ100本の木を植えることができました。正門に聳え立つコニファーや園庭を囲むシラカシ、モミジ、桜。森の広場のコナラやイヌシデ、保育室の北側（住宅側）の窓から見える斜面にはヒメシャラ、カエデ、椿など、、春以降に葉が付き始めるとこれまでと違う景色が観られることと思います。記念植樹にご協力頂きました保護者の皆さま、そして八王子市に心から感謝申し上げます。

また、先日、年長さんと森の広場の奥にヒノキを2本植えましたが、これも100本のうちの2本です。森の広場に昨年、年長さんが設置したムササビの巣箱に、ムササビがヒノキの皮を集めてベッドを作った形跡がありました。これを見た本年度の年長さんが、より身近にヒノキを植えることで、ムササビが棲みや

すい環境ができると考え、植えたものです。年長さんが、積もった雪をかき分け、剣スコップで大きな穴を掘り、頑張って植えました。年長さんにとっての記念植樹になりました。



正門の巨大コニファー、森の広場に15本の山の木。

ムササビの為に年長が植えたヒノキ。

### カエル池では…

カエル池には毎年恒例の、ヤマアカガエルの卵塊が沢山見られます。これからまだまだ増えていくことでしょう。子ども達は卵塊をすくって、水槽やバケツにそっと移し、教室に持っていき、じっくりと観察をしています。卵塊に手で触れた感触はきっといつまでも忘れないことでしょう。春には沢山のオタマジャクシに、そしてやがてカエルになって山に帰っていく様子が観られます。いよいよ生き物たちが動き出します。たくさんの出会いと発見、そして感動が待っています。今から楽しみです！



**フットサル大会** サッカークラブ（年長・小学1・2年）が八王子市フットサル大会に参加しました。年長は2チームが参加しましたが、最後まで一生懸命ボールを追いかけ、よくがんばりました！



### その他…

自由登園の日の雪遊びから、「ソリジャンプ」。オリンピック種目にあったら楽しそう！子ども達も先生も、よく飛びました！

